

基礎案での記載箇所		章項目	5. 7. 2	ページ	p.57	行	37行目
事業名	天ヶ瀬ダム再開発事業		河川名	天ヶ瀬ダム再開発事業			
府 県	京都府	市町村	宇治市	地先	金井戸		

### ●現状の課題

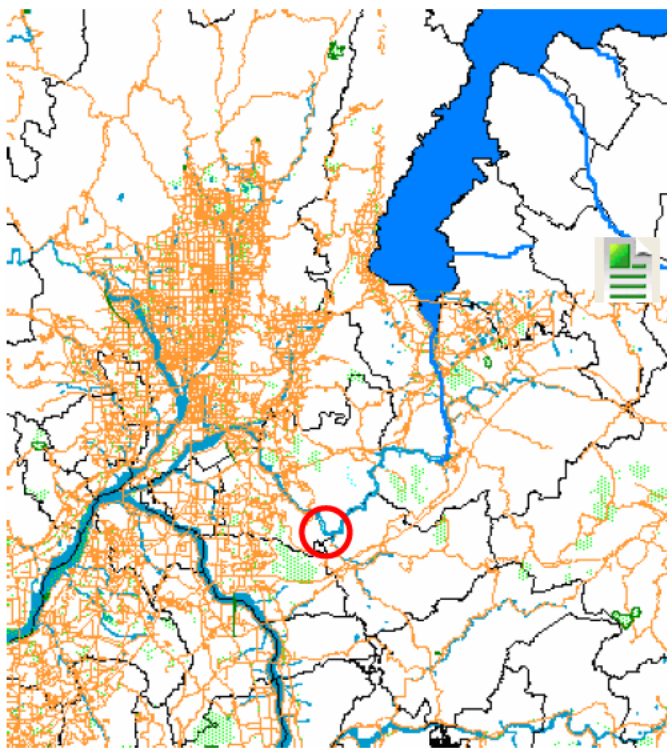
下流部が危険なときは下流の洪水防御のため、瀬田川洗堰からの放流を制限もしくは全閉している。その後、洗堰を全開して、上昇した琵琶湖水位を速やかに低下させる(後期放流)ようにしている。しかし、瀬田川下流部にある狭窄部、天ヶ瀬ダムの放流能力及び宇治川の流下能力が支障となり、湖周囲では長時間にわたる浸水被害が発生している。

### ●調査検討の方針

瀬田川下流部にある狭窄部(鹿跳溪谷)、天ヶ瀬ダムの放流能力不足及び宇治川の流下能力不足により発生する長期にわたる琵琶湖の高水位による浸水被害の軽減を図る。

天ヶ瀬ダムの放流能力を増大することにより洪水調節機能を増強し、下流の浸水被害を軽減する。

### ●位置図



### ●具体的な調査検討内容

- ・琵琶湖沿岸の浸水被害軽減のため、「水害に強い地域づくり協議会(仮称)」を設置し、土地利用誘導等の諸施策について、検討する。
- ・天ヶ瀬ダム放流能力増大方策として既存施設を活用した放流方法の検討を行う。
- ・放流方法の変更に伴う環境への影響についての調査・検討を行う。
- ・貯水池運用の変更に伴う環境等の諸調査を行う。
- ・天ヶ瀬ダム再開発を含む瀬田川の流下能力増強による、琵琶湖における生物の生息・生育環境を保全・再生するための琵琶湖の水位操作について、検討を行う。
- ・土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行う。
- ・利水について、水需要の精査確認を行う。

●位置図

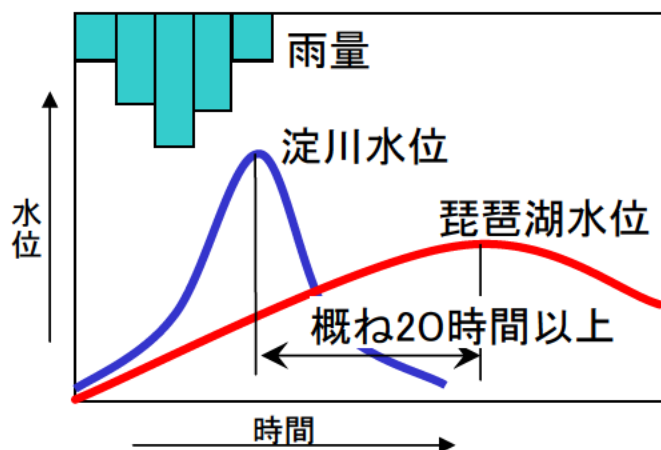


●写真



## ●現状

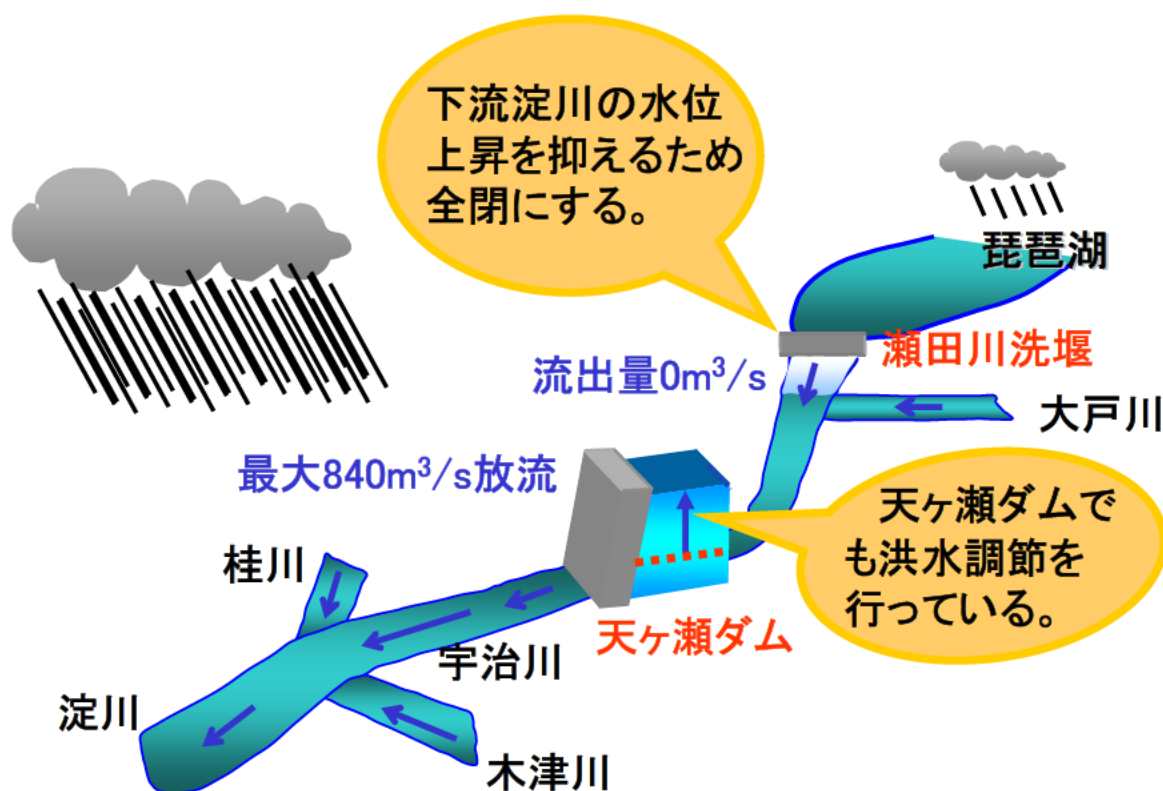
## 1. 琵琶湖と宇治川・淀川の洪水には時差がある。



琵琶湖は大きいので、水位上昇はゆるやかである。下流淀川の水位がピークを過ぎ、下がり始めてから琵琶湖の水位がピークとなる。

## 2. 天ヶ瀬ダムと瀬田川洗堰は、琵琶湖と淀川・宇治川の洪水時差を利用して連携操作を行う。

- ①洗堰からの放流を制限し、天ヶ瀬ダムにおいて洪水調節を行い、宇治川・淀川の水位上昇を抑える。
- ②下流の洪水が治まってから、洗堰を全開にして琵琶湖の水位を下げる。



●琵琶湖から流れでている既存施設

